

資材課の立場から

宝田祐樹

大阪府済生会中津病院 事務部経営企画室資材課 課長

2020年2月上旬、取引業者より「サージカルマスクが供給停止となります」との連絡が入り、サージカルマスク（以下：マスク）を含む個人用防護具（以下：PPE）物品（ガウン・プラスチック手袋・N95・キャップ）も次々と供給停止や供給制限がかかり始めた。マスクについては、これまで通りの使用量で継続すると1週間後には現場への供給ができない状況であった。そして数日後にはプラスチック手袋も供給停止となり、3日後の供給ができない状況であった。プラスチック手袋については各メーカー出荷制限が掛かっている中、採用していなかったメーカーと交渉の末、供給が可能となった。

いずれも感染管理室に供給量・備蓄量・使用量等の状況を共有し検討の上、備蓄品と各部署の在庫を全て回収し当課で中央管理とし、マスクについては原則1日1枚の使用制限（写真1）、プラスチック手袋については適正使用の周知を行った。

さらに手指消毒剤、長袖ガウン、N95も出荷制限がかかり、感染管理室に相談の上、使用制限を行った。ガウンに関しては一部の部署で職員がゴミ袋で作成した「手作りガウン」を使用した。

同年2月中旬頃より大阪府からPPE物品の供給が開始されたが、当初は不定期に供給され、物量も不安定で当院の使用量からすると十分ではなかった。

同年4月頃より厚生労働省からPPE物品の供給が開始され、こちらも当初は不定期で物量も不安定であった。物品の受領、仕訳、収納作業にも追われたが、徐々に定期的となり現場へ供給することができた。（写真2）また、同時期に企業や個人の方からの支援・寄付

（N95・ガウン・マスク・フェイスシールド・飲食料等）も多数いただいた。

行政からの供給物品や寄付物品は多種多様であったが、払出を調整する事で継続して診療現場へ供給することができた。

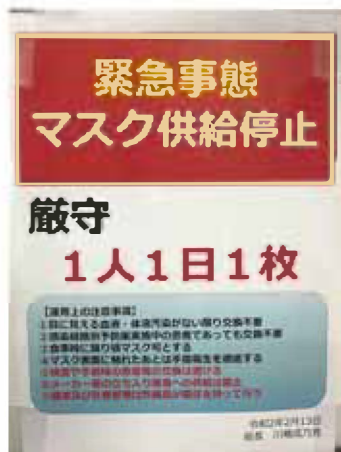
2021年に入り、マスクとプラスチック手袋に関しては徐々に回復の傾向となったが、N95やガウンは出荷制限が続いた。他の製品でも製造元でのクラスターが多数発生し、物流の状況はあまり改善しなかった。そのため、欠品や遅延する診療材料等の製品を他社製品へ切り替えや代用品の手配等の対応に追われた。

またPPEだけでなくCOVID-19感染患者の受け入れに対応するための医療機器・検査機器に関しても、多くの病院が整備・調達に動き出し、購入手配ができて納期が数か月先や未定となるなど現場との調整に苦慮した。

関連機器の整備については厚生労働省および大阪府のCOVID-19に関連する各補助事業も活用し調達整備した。

【2020年度および2021年度COVID-19関連補助事業で調達した主な機器】

- ・生体情報モニター（セントラル6台・ベッドサイド22台・送信機7台）
- ・回診用X線診断装置2台
- ・人工呼吸器4台
- ・ネーザルハイフロー2台
- ・リアルタイムPCR1台
- ・安全キャビネット2台
- ・簡易陰圧装置6台 等



（写真1）マスク供給停止時の院内掲示



（写真2）行政からの供給物品の受け取り